**第２章 地域の概況 2.2 生活環境の概要 2.2.1 大気質**

**現地調査の内容5～6ページ**

**湾岸周辺５区の大気汚染の状況をアセスしてください。**

**理由**

　2025年の大阪万博の予想人数は2800万人、1日平均16万人になります。構想では内陸に駐車場を設けてシャ トルバスで運ぶ手段を考えるとしています。 仮にすべてシャトルバス利用とすると、50人乗りバス乗車率70％として万博で9,500台という予想になります。大阪府は同時期に、万博に隣接するIRカジノへの集客を一日平均4万人と見込んでいますから、カジノで平均2350台になります。一部は鉄道輸送されるでしょうが、 それでも大量の自動車交通が生じます。夢洲と内陸とつなぐ道路輸送ルートは２本のみ、１つは夢舞大橋で舞洲経由して内陸へ、２つは夢咲トンネルで咲州経由して内陸へつながるルートです。 そして臨海5区（西淀川、此花、港、大正、住之江）の高速道路や幹線道路によって関西や全国につながります。IRカジノ・万博への流通輸送は全国各地から臨海５区に集中し、そこから夢洲に向かう流れになります。このことはIRカジノ・万博によって発生する交通量に応じて臨海5区の自動車交通量が増大し、 自動車排ガス汚染負荷が増大することを意味します。

　大阪市、とりわけ臨海５区は、かつて埋立て臨海工業や港湾開発に起因する大気汚染、 自動車排ガス汚染によって激甚な公害が引き起こされ、大阪市の全体の2倍以上の比率の1934人の方がぜんそくなどの公害で苦しんでいます。大都市比較統計年表2016によれば、大阪市は21大都市中最も大気汚染物質濃度が高い都市の１つです。その大阪市の中でも、臨海５区は大型車交通の割合が高く、NO2やPM2.5などの自動車排ガス汚染に見舞われています。湾岸５区は、万博開催中の乗用車、バスの集中でさらに大気汚染の悪化が予想されます。